

2015年6月21日第三主日父の日礼拝

説教「天におられる私たちの父」

マタイの福音書7章7-12節

【山上の説教】

この有名な箇所は、5章から7章にかけての山上の説教の一部、締めくくりの部分です。山上の説教は、主イエスがクリスチャンの生き方を示してくださったところ。すでに「幸いです」(5:3節以後)と祝福され、「地の塩」(5:13)、「世界の光」(14)とも呼ばれている私たち。将来光となるのではなく、今すでに光である私たちに、主イエスは「すでにある光を輝かせなさい。輝くままにさせなさい」とおっしゃるのです。

「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(5:16)ともあります。光である私たちが、光を輝かせるとは、よい行いをすること。主イエスのように愛すること。主イエスのように与えること。そのように生きること。

この山上の説教の終わりに、求めよ、捜せ、たたけ、と主イエスはおっしゃいます。何を求めるのか。それは、光の生き方。光である私たちの生き方。主イエスのような生き方を熱心に捜しなさい、とおっしゃいました。

【天におられるあなたがたの父】

いかにすれば、主イエスのように生きること

ができるのでしょうか。主イエスのお答えは明快です。「あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありますでしょう。」(7:11)。

私たちが主イエスのように生きることができかどうかは、私たちの努力にはかかわっていません。神さまのご人格、神さまのご性格の問題なのです。神さまのご性格からして、私たちに良いものを与えないではいられない。神さまとはそういうお方。そして、ついに御子イエスをすべての人のために十字架につけてしまわれました。

「天におられるあなたがたの父」は、実は天地創造の前から、御子イエスの父。永遠に離れることがない父なる神と子なる神です。ところが、十字架の上で主イエスは、父から見捨てられてくださいました。見捨てられて、「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか」と叫ばれたのです。私たちが「天にましますわれらの父よ」と主の祈りを祈るときも、この父は御子イエスを見捨ててしまわれた御子の父であることを心にとめておきたいものです。この父が、私たちに良いものを与えてくださる。主イエスのように生きる生き方を与えてくださるのです。

【たたきなさい】

光である私たち。けれども、実際に、主イエスのような生き方に踏み出すときに、やはりたじろぐことがしばしばあります。愛し合おうとしても、それを受け入れない人に苦しむこともあるでしょう。傷つきいらだって怒りをぶつけてくる人々もいることでしょう。そんなときに、私たちの心がしばしば悲鳴を上げます。もう、あの人にはかかわりたくない、もうこれ以上いやな思いをさせられたくない、神さま、もう私は世界の光でありたくありません、そう言いたくなることもあるのです。

主イエスは、そういう私たちに対して、「たたきなさい」とお命じになります。自分ではどうにもならなくなっている私たちを招いてくださり、そんな自分を主に委ねるようにおっしゃるのです。あなたの重荷を私に委ねなさい、と。私が、あなたの光を取り戻させ輝かせ続けてあげようと、そうおっしゃってくださるのです。

【それぞれのカルカッタへ】

マザー・テレサがカルカッタへ遣わされたように、私たちもそれぞれのカルカッタがあります。私たちはそこへ光として、愛するために、同時に愛されるために、遣わされています。しばしば愛し合い切れない痛みを覚えるけれども、私たちには天におられる父がいて、愛をまっとうさせてくださるのです。